

# 2013年度執行部が発足しました

—— 給与減額問題をはじめとする諸課題に全力で取り組みます！ ——

これまでの取り組みを継承し、さらなる前進を実現させるために

## 執行委員長 新井英永（文学部 文化史学）

じつに8回に及ぶ団体交渉が雄弁に物語るように、昨年度の執行部は熊本大学教職員の給与・退職手当の減額に抗して奮闘しました。一例を挙げれば、獲得に至った「臨時特例手当」は、たしかに「代償措置」としては組合の要求からかけ離れたものであり、まったく不十分です。しかしながら、長い間の運動の結果であるこの成果が、組合の存在意義を示すものであることも事実ではないでしょうか。交渉は継続中であり、これまでの執行部の努力を無駄にせぬよう、新執行部一丸となって困難に立ち向かってゆく所存です。

組合員拡大につきましても、それぞれの支部、とりわけ医学部支部において精力的な取り組みが展開されています。ただし、私立大学等の労働条件のより良いところへの転出者は増え続け、いわゆる団塊の世代の方々が退職を迎えようとするこの時期、組織拡大への取り組みの強化は喫緊の課題です。

もとより、他にも課題は山積しています。私は2000年度に副委員長を経験していますが、その頃から大学を取り巻く情勢は大きく変わりました。新たな情勢の中で画期的な何かを始めるには、力不足であることを痛切に自覚しています。しかし、大役を引き受けた以上、昨年度の取り組みを継承しさらに前進させるために、皆さまのご協力をいただき最善を尽くす覚悟です。一年間、なにとぞよろしくお願ひいたします。

## 書記長 斎藤 靖（文学部 アングロ・アイリッシュ文学）

いまさら私が言うまでもなく、法人化によって大学における組合の存在意義とその果たすべき役割は決定的に変わりました。書記次長としてかかわった法人化前の団体交渉において大学当局（現在の使用者）は、組合のはほとんどすべての要求に対して「理解するが予算がなく対応は困難」「文部省に働きかけている」といった実質的なゼロ回答を繰り返すばかりでした。もちろん、そうした状況にあっても組合は粘り強く運動を続けてきました。しかし、当時の徒労感を今でも忘れることはできません。

「独立」行政法人になって久しいにもかかわらず、残念なことに、熊本大学使用者が本当の意味で経営者としての自覚を持ちその責任を果たしているとは思えません。これとは対照的に組合は、全国の他の国立大学に例を見ない数々の大きな成果を獲得する労働組合へと着実に進化しています。

2006年の給与引き下げ以降、士気が上がるどころか、見たくもない給与明細を手にするようになって、すでに8年目となります。こうした現状に甘んじることなどできるはずがありません。課題は尽きるどころか増殖し複雑化しています。憤りを活力とし、新執行部の一員として、これまでの組合運動を確実に前に進めて行けるよう努めてまいります。組合員の方々のご理解とご協力をお願い致します。

## 役員名簿（敬称略）

支部名	役職名	氏名	担当部会（専門、職種）
文・法学部	執行委員長	新井 英永	賃金、組織・財政、現業職員
医学部	副委員長	石原 光浩	賃金、組織・財政、現業職員、有期雇用職員、医療技術職員
文・法学部	書記長	斎藤 靖	賃金、組織・財政、事務職員、現業職員
工学部	書記次長	清水 久雄	賃金、組織・財政、国公共課、技術職員
文・法学部	執行委員	渡部 薫	組織・財政、教員
教育学部	執行委員	池田 志郎	教育・文化・レク、教員
教育学部	執行委員	岩永 定	女性、教員
工学部	執行委員	佐藤 宇紘	青年、技術職員
医学部	執行委員	梅木 彰子	女性、看護師
医学部	執行委員	大塚 勝二	教育・文化・レク、有期雇用職員
医学部	執行委員	松原 隆敏	青年、医療技術職員
医学部	執行委員	吉田裕二朗	教育・文化・レク、看護師
理学部	執行委員	副島 顯子	女性、事務職員
理学部	執行委員	田中 明	教育・文化・レク、教員
文・法学部	監査委員	中川 順子	
教育学部	監査委員	山城 千秋	
医学部	監査委員	小原 大輔	

組合事務所には午前9時半～午後5時半まで書記の徳永（医支部）、宮川・前田（本部）が勤務です。

## 書記局員を募集します

今年度も組合規約第23条3項にある、書記長業務を応援・お手伝いする書記局を設置します。ご協力いただける方は、6月27日（木）までに組合事務所（下記）に連絡してください。よろしくお願いします。



熊本大学教職員組合

No.1  
2013. 6. 17

内線:3529 FAX:346-1247  
ku-kyoso@union.kumamoto-u.ac.jp  
<http://union.kumamoto-u.ac.jp/>